特集

キーワードは「みんなでやろう！」賑わいづくり研究会に聞きました

市民と議会をつなぐ特集ページです。今回は「庁舎東館を核とした賑わいづくり研究会」の皆さんから、活動をとおして感じたことや賑わいにつながる活動をどのように描いているかを聴きました。

「研究会をオープンに!!　参加者の輪が広がっていくことで大きなエネルギーが生まれる。様々な団体が関わることで、内から賑わうことが最初の一歩。」

市民協働センター主催講座「きくがわ未来塾」の講師等として、菊川のまちづくりに深く携わっているＮＰＯサプライズの飯倉清太氏をアドバイザーに、地元市民、産学官金、様々な分野の委員が集まって、駅から市役所庁舎間エリアの賑わいづくりを研究する会の活動が昨年度からスタートしています。

〈委員になっての感想・思いを教えてください〉

・研究会は堅苦しくなく発言しやすい。地域を取り巻く幅広いメンバーがそろっていて、賑わいづくりを研究していくうえで申し分ない。

・高校生が計画した「小さな収穫祭」をやっと開催できた。研究会に参加したことで地域貢献・地域探求につながる第一歩を踏み出せた。

・研究会以外の場でもつながることが多くなった。研究会を核として様々な市民活動が活性化していくといいと思う。

・各団体と協力し、新しい事業を行いたい方へチャレンジスペースを提供することで賑わいづくりに協力したい。

・中心市街地は今後の豊かな生活の実現に大切な役割を果たす場で、再生することが求められている。

・学校や市の人とつながり、視野が広がった。

・見守ってくれている地域の方に活動を伝えていきたい。

・高校等いろいろな団体とのコラボレーションで大きなエネルギーになっている。

〈どのような賑わいを描いていますか？〉

・菊川市民が集まること。菊川がどんなまちになるべきか想定をする。浜松と静岡の中間にあり、ベッドタウンとしてコンスタントに事業をやっていけば、市民に周知され、市外にも発信していくイメージ。

・参加したくても参加の仕方がわからない人もいる。事業を周知して、参加者を増やしていくことが大切。

・大学や専門学校で市外に出た人が卒業後に魅力を感じて戻ってくることが賑わいだと思う。例えば、7月に開催した「小さな収穫祭」は地域探求事業として地産地消を含めた地域の魅力を感じてもらうことが目的のひとつ。地域に誇りを感じてもらえるようつなげていきたい。

・未来志向で考えると「小さな収穫祭」は大きな一歩。東館「きくる」という拠点ができ、「やってみようかな」という人がどんどん出てくることが、賑わいではないか。

・今回高校生がイベントを行ったが、バラバラで行うのではなく様々な連携ができることでエネルギーになればステキだと思う。活動団体が増え、輪が広がっていけば地方創生にもなり、この研究会が中心となって「みんなでやろう」がキーワードとなる。